

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念でありどなたが見てもわかりやすいように玄関の出入り口、フロアーに掲げています。職員全員が理解し実践できるように努めています。		朝礼後、唱和している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングやスタッフ会議の中で話し合い実践に向け取り組んでいます。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	定期的に運営推進会議を開催し地域との交流及び家族との連携が上手く図れるよう取り組んでいる。		
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	施設の近くに野菜畑があり、散歩途中必ず立ち寄り野菜の作り方やお花の手入れなど教えていただいています。また施設に遊びに来ていただくこともお話しする。行きかうどなたにも笑顔で挨拶するよう心がけています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の代表の方(自治会・老人会・町づくり協議会他)参加いただき施設の見学会・施設の事業内容の説明を行い、ご挨拶と今後のご協力をお願いする。	○	「陣原ふれあい祭り」開催し地域の方や学生のボランティアの方にお手伝いいただき、屋台や五平太太鼓の演奏など様々な活動を通して、地域の方との交流を今後も継続して行きたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	陣原市民センター主催「介護教室～なるほど介護ABC」に協賛。	○	市民センターの介護教室のお手伝いをさせていただき地域の方を施設にお招きして、介護の講演(介護保険制度、高齢者の医療について)や介護の実践(実際に移乗や食事介助などを体験していただく)をおこなった。今後も地域に関われた施設としてお役に立ちたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めて第三者評価を受けるので、今後の改善に生かしていきたい。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際を報告しそれに対してのご意見など伺いサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設行事のボランティアを紹介していただいたり、感染症についての情報や助言など頂く。また事故報告など提出している。		介護サービス相談員派遣事業の申し込みをしている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	相談窓口は相談員が対応しています。現状左記の制度・事業を必要とする入居者さんはおられないが、制度の使用が必要になった際にいつでも活用できるよう学ぶ機会を作っており、しっかりと理解できるように努めている。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての学習会は未実施であるが、折に触れて身体拘束廃止について職員への指導を実施など行い防止に努めている。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族に重要事項・契約内容を書面で示しながら時間をかけて納得いただいている。また契約後に疑問点や不安な点が生ずれば、その都度対応させていただいています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの申し出は日々の会話の中で又、入居者の表情から職員が察知するようにしている。入居者からの意見や要望は記録に残しその都度介護ケアに反映させている。		ご意見箱を設置して、利用者、ご家族の生の声を頂いている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者各位の暮らしぶり・健康状態は家族の来訪時に報告している。又、電話での報告も適時行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、ご家族からの直接の苦情などの相談窓口(管理者)を設け、素直な意見を話していただくように、日頃からコミュニケーションをとるように配慮し、意見内容は職員で話し合い改善していくようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ユニット別にカンファレンスを行うと共にホーム全体で会議を開いて意見交換・情報提供・ケアの改善などの機会を設けている。スタッフノートを活用して業務改善に努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成の前にあらかじめ希望休など聞き、極力職員の生活状況と希望に応えられるようにしているまた病気、冠婚葬祭等急な変更にも対応できるよう勤務の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への担当制をとり、職員の勤務に対する充実感を持たせる等して離職を最小限に抑えるよう努めているが、止むをえない異動などの場合は利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。事業所で働く職員についても、各人の能力を発揮し、様々な研修に参加させ自己へのレベルアップを図っている。		他のグループ・ホーム等に体験学習とさせ視野を広げた研修制度を設けたいと考えている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	基本理念に基づいた人権教育を、全体ミーティングや朝礼・夕礼時、折にふれ実施中		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成する為の計画を立てている。認知症介護実務者研修を受講する職員に対して費用については会社が負担し職員の負担を軽減している。		行政や職能団体による外部の研修を受けることも推進していきたい。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	10月に他の同業者と合同で事故防止の研修会を開催予定。事故防止意見交換会など行う。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	悩みについて相談を受けたり懇親会を開いたりしている。自由に意見を言える環境づくり雰囲気作りをしている。		年2回程親睦会など行っているが、今後も継続したい。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	外部研修等を時間がゆるす限り受けたいたり個人面談を行ってモチベーションをあげるように努めている。		
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問を何度か行い顔なじみの関係を作る、ご本人の困っていること、不安なこと求めていることなど、本人自身からお聞きし受け止める努力をしていますまた体験入居も行っています。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族に対しても充分説明を行い納得されるまでご相談を受けとめる努力をしている。		ご家族と一緒に体験入所をしていただくこともできる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況を見極めご本人、家族の希望などサービスの必要性があれば利用できるように支援している。		現在3名の方が下肢筋力低下防止したいとの希望で医療受診リハビリを受けています。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学や体験入居をしていただき、職員や他の利用者、場の雰囲気など体験して検討していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にすることで愛情が生まれ父、母のような錯覚させ感じさせていただいています。毎日笑顔で生活していただく為には共に支えあう感情が大切だと思います。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、コーヒー、お茶などお持ちしご本人を交えてゆっくりと過ごしていただいております。また、日々の出来事など伝える場でもあります。		毎日面会に来られるご家族は、毎回お茶など出されると恐縮しますといわれマイ、コーヒーを置いておられます。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	絵手紙年賀状・暑中見舞いなど入居者と居室担当者が共同で書いてご家族に出しています。曾孫さんからも返事が届くこともあります。		「のぞみ新聞」など送付しています。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの思いを大切に馴染みの関係が途切れないようにご希望に応じて支援しています。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性や性格など職員が把握しており、どのご利用者も良い関係が築けるように努めている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先など面会に行っています。ご家族の方からお礼の電話などがあります。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを尊重した支援に努めています		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から聞き取りを行いアセスメントシートを作成し職員間で共有できるようにしている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日レクリエーションは実施しているが、参加については、自由にさせていただいている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前にご家族、本人の意向を聞き、ケアカンファ(担当スタッフ、看護師、主治医の意見を聴取)を行いご本人にとってよりよい介護計画を作成している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体状態変化、退院時、ご家族の希望などが生じたときは介護計画の見直しを行っています。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの課題表を作成し情報の共有や介護計画の見直しに生かしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設(特定有料老人ホーム)。他の施設などのご利用希望があれば対応できるように支援している。		ご家族、ご本人の希望でリハビリを行い送迎している。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	救急隊による救命講習、特定施設、グループホーム合同で防火訓練、音楽療法(ボランティア)、保育所福祉専門学校の学生ボランティアの方など来て頂いている。	○	ボランティアの受け入れに積極的に取り組みたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人、ご家族の意向に沿って支援しています。		下肢筋力低下防止の意向あり現在4名の方が医療受診リハビリを行っています。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1回運営推進会議の場で意見交換を行っている。ご利用者の意向や必要に応じて相談している。	○	今後も地域包括支援センターとの連携を図りたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を優先しています。特に意向のない場合はホーム提携医と24時間体制の連携が取れている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在、専門医受診を行っている		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者をよく知る看護職員が日常の健康管理や職員からの相談など助言してもらっている。		介護士と看護師の連絡ノートがありご利用者の状況など確認することができる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	安心して過ごせるように度々、面会に行っている。病院関係者との情報交換や相談にも努め、病状把握を行っている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族と話し合いの場を持っている。必要によっては主治医と話し合いを行い、スタッフ全員で方針を共有している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	できることと、できないことを見極め、ホームで行えない時は協力病院と連携をとり支援している。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族、相談員、管理者、受け入れ先のスタッフと十分な話し合いや情報交換を行いご本人のダメージを最低限度に抑える。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイルは鍵のかかるところに保管している。会議にて指導し対応について徹底している。		職員雇用時、「接遇マナー」の研修を行っています。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの力に合わせた働きかたを行いご自分で決定できるように支援をしている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態に合わせて希望にそった支援をしているが、危険が伴ったり、トラブルのもとになる場合は希望に添えないこともある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	マニキュア・身だしなみの支援。2箇所から美容師が定期的にホームに来られ、ご本人の希望にあわせパーマ、カット、毛染めなど行っています。またご本人が希望するところがあれば支援している。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、盛り付け、後かたづけ、洗い物などは無理強せず、できる範囲でスタッフと共に行っている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品の制限はしていないが、糖尿病などのある方は注意をしている。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレにて気持ちよく排泄できるよう支援している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調とタイミングにあわせて気持ちよくゆっくりと入浴できるよう支援している。ご自分で行える部分はご自分でしていただき、できない部分は介助している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりにあった安心して入眠できるように支援している。中途覚醒、不眠などの場合はフロアでお茶など飲んでいただきスタッフと過ごしている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の盛り付け、食器洗い、食器拭き、洗濯干し、中庭の掃除、食器洗いなどスタッフとともに一人ひとりの力を活かした支援をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じて、またご本人希望があればご家族に相談し所持していただいています。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の状況に合わせて、散歩、買い物、ドライブなど支援しています。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご自分の家がどのようになっているか見に行きたいご主人が入院されている為、面会に行きたいなどの希望があり、その都度個別に対応している。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの母の日のプレゼントなど、写真を撮りお礼の手紙など担当者と一緒にしている。暑中見舞い、年賀状など支援している。電話希望あるときは応じており、本人がかけれない場合はスタッフが代行し代わっている。		居室に電話を取り付けられている方が2名。携帯電話は1名の方が利用されている。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は玄関まで出迎え、帰宅時は、本人、スタッフと一緒にお見送りしている。居室には、ご利用者の日々の生活を映したアルバムを作製し置いている。		フロア、居室にてお茶、コーヒー、お菓子など食べていただき過ごしていただいています。
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員全員で勉強会など開催し知識を深めている。センサーなどを使用し3点柵解除を行ったこともある。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前でチャイムが鳴ることでスタッフが対応できるように工夫し鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は皆フロアで過ごされることが多いので見守りに努めている。居室入室の際はノック・声かけを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬・洗剤・刃物など入居者の目に触れない場所を保管場所と決めている。はさみなど危険なものとは区別がつく方はご自分で所持され必要時使用されている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	講習(救急救命)に参加したり事故防止には最新の注意を払っているが事故が起きたときには報告書を提出し、全員で話し合いを持ち再発防止に努めている。		再発防止のためヒヤリハットの徹底
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	転倒、窒息、意識障害など入居者様の急変や事故発生時に備え、すべての職員が応急手当や初期対応できるよう訓練を定期的に行っている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	8月の運営推進会議で議題にあげ地域の協力を得られるよう話し合う。防災訓練は定期的実施している	○	陣原防災会があり名簿作成し地域の防災訓練を行う予定とのこと。防災訓練参加受け入れ承諾していただく。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の訪問時、リスクにたいしての話し合いは持っている。危険度の高いリスクがある場合、家族、スタッフと話し合い他に変わるものを見つけ、本人にとって抑圧感のない暮らしができるように支援している。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	健康管理表の記録を参考にして、体調の変化を把握し早期発見に努めている。異変があるときは、看護師に連絡し対応。また申し送りノートを活用し、スタッフ全員で情報を共有し健康管理に努めている。		異常の早期発見に努め、必要な時は、救急搬送している。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者別の薬ファイルがある。薬の変更などあれば看護師から連絡を受け、連絡ノートに記入してある。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分の管理(水分チェック表)、排便・尿管理(排便チェック表)食事量、体操などに気を付け、予防に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。ご自分でできない方は介助している。問題があれば歯科の往診依頼している。		現在4名の方が治療を受けている。食前、口腔体操を行っている。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を確認し記録している。必要な水分量が確保できるよう、毎食、午前、午後のおやつ毎、夜間、入浴後の飲料を提供している。その方に応じて(糖尿病・嚥下障害)摂取量や栄養バランスを栄養士に相談している。		食欲のないご利用者様には、食事の希望を聞くように配慮している。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員、入居者の全員がインフルエンザの予防注射を受けている。感染対策マニュアルも作成している		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	浄水器を取り付けている。また台所、調理用具など衛生管理を行い定期的に消毒などしている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	鉄筋コンクリート建ての為、暖かい雰囲気になっている。手作りのホーム名、木の椅子、ユニークな木のポスト、花木など訪問される方が安心して出入りできるよう配慮している。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭があり季節を感じられるように花や野菜を植え込んでいる。常に清潔に配慮し居心地よく過ごせるように配慮している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者同士がテレビ観たり歌を歌ったりされている。リビングにはソファや畳スペースがあり独りでも、皆さんとでもゆっくりと過ごせるようになっている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が居心地よく過ごせるように使い慣れたものを持って来ていただいている。。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室ごと換気の設備、温度計、湿度計を設置。またフローアーにも設置しており常に気をつけている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、照明の工夫、浴槽内のすべり止め、段差の床などすべてにおいてバリアフリーになっている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの認知度や身体機能を考慮して接している。認知症があっても「あるがままに、楽しくゆったりと」自立して暮らしていけるよう工夫対応している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭でそうめん流しやテーブル、椅子などを出しておやつを食べている。裏庭では日光浴を行っている。プランターに季節ごとの作物を植え込み、皆さんと一緒に収穫したりしている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない